

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 26 年 1 月 16 日 (2014.1.16)

【公開番号】特開 2012-9411 (P2012-9411A)

【公開日】平成 24 年 1 月 12 日 (2012.1.12)

【年通号数】公開・登録公報 2012-002

【出願番号】特願 2011-37975 (P2011-37975)

【国際特許分類】

H 0 1 R 4/38 (2006.01)

H 0 1 R 11/12 (2006.01)

H 0 1 R 43/16 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 4/38 B

H 0 1 R 11/12 E

H 0 1 R 43/16

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 11 月 25 日 (2013.11.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

参考文献 1 (志摩政幸・地引達弘、“トライボロジー概論”、東京海洋大学海洋学部海洋電子機械工学科、講義テキスト、p.28、URL：http://www2.Kaiyodai.ac.jp/~jibiki/ou_riki/text/tribology_text.pdf) には、軟鋼平面における真実接触面積が示されており、見掛け接触面積が 2000mm^2 の場合に、荷重が 500kgf のときは真実接触面積が 5mm^2 、 100kgf のときは真実接触面積が 1mm^2 、 20kgf のときは真実接触面積が 0.2mm^2 、 5kgf のときは真実接触面積が 0.05mm^2 、 2kgf のときは真実接触面積が 0.02mm^2 であることが開示されている。大きな荷重で 2 つの平らな金属を押さえつければ、真実接触面積が増加することが分かる。つまり、現在の主流の 1 つであるネジ締めは、大きな荷重を加えることで接触面積を大きくし、接触抵抗を小さくしていると考えられる。